

令和5年度学校自己評価システムシート (県立三郷工業技術高等学校)

目指す学校像	「ものづくりの精神」に基づき、豊かな人間性を育成するとともに、学力向上をとおして、生徒の自信を高め、地域に貢献できる技術者を育成する
--------	--

重点目標	1 基礎学力や専門知識・技術の習得を重視し、学習指導を充実させる 2 生徒指導及び進路指導の充実を図り、社会人基礎力を身につけさせる 3 開かれた学校づくりに取り組み、工業高校の魅力を積極的に発信する
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	7名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	8名

学 校 自 己 評 価					年度評価 (1月25日現在)		
年 度 目 標					年度評価 (1月25日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	現状：教科指導において、「わかる授業の実践」を進めた結果、多くの生徒が授業内容を理解している。 課題：基礎学力が身に付いていない生徒が多く入学している。引き続き家庭での学習習慣をつけさせる指導と、基礎学力の向上、専門知識と技術の確実な習得を行い、生徒の自信を高める必要がある	①授業改善と指導力向上により、生徒の学習意欲を向上させる。 ②資格取得や、各種コンテスト、大会への積極参加。	①ICTを活用した授業展開。	①ICTを活用した授業が積極的に行われ、生徒の授業への積極参加が見られたか。 ②1年生においては、一人一台端末の積極活用がされたか。	ICTの活用、新1年生から導入された一人一台端末に関して、研修会やアプリの導入が行われ授業改善が進められている。専門教科への理解度も昨年度と比べやや上昇した。 ①ICTを活用した授業が多くみられるようになった。1年生の端末活用は2学期以降となった。新たなアプリを導入するなど積極的な活用が促されている。 ②専門科目の「内容を理解できた」という割合は、75.8%(M75.5%、R70.9%、E73.6%、T74.1%、C82.8%) (昨年度73.7%)、課題研究の満足度81.4%(同74.1%) 資格やコンテストへの参加意欲は高い。 ①「資格を取得したい」83.3%、「積極的に取り組んだ」54.4%。新たに取得した生徒数285人(1年161人、2年87人、3年37人)1、2年生の割合75.2%(同83.0%) ②「資格指導が充実している」77.0%	B	
			①専門学科指導の追求と課題研究の充実	①工業科の授業で「授業内容が身についた」という生徒の割合が各学科・各学期とも80%以上か。 ②課題研究の生徒満足度90%以上か。			①「資格取得やコンテストなどに取り組む生徒が多くいたか。 ②アンケートにおいて、資格指導が充実しているとの回答が80%以上か。
			②資格取得の指導。	①資格取得やコンテストなどに取り組む生徒が多くいたか。			
2	現状：生徒規範は守られている。大きな問題行動は見られない。進路指導も充実し、生徒の進路実現が達成されている。 課題：引き続き、社会人基礎力の育成を目指し、組織的な生徒指導、進路指導を通し、集団の一員としての自覚と責任を高め、進路実現につなげる必要がある	①社会人基礎力の育成を目指す生徒指導の推進。 ②生徒の進路実現へ向けた指導。	①生徒の「セルフマネジメント能力」を高める生徒指導の推進。	①基本的な生活習慣の確立、特に遅刻者数が減少したか ②手帳を使った自己管理ができたか。	社会人基礎力を目指す生徒指導や安全教育は概ね達成できた。 ①遅刻者数は1、2学期合計728人(昨年度1105件)「自己管理能力が高まった」の割合は79.3%(同72.8%) ②1年生への自転車安全指導を実施。ヘルメットの着用を呼びかけている。 今年度2年生より専門コース、大学コースが発足。生徒の進路実現へ向けた取り組みが行えている。 ①2年生のコース選択について「満足しているか」の割合73.6%、大学コースにおいては77.8%。 ②各学年において、適切な進路ガイダンスを実施。情報電子科ではインターンシップを実施。1年時において、企業見学や施設見学を実施。「進路指導が十分に行われている」割合は89.5%(同84.7%)	B	
			②自転車安全講習会を実施、ヘルメットの着用を呼びかける。	①講習会を実施できたか。安全指導を適切に行えたか。			
			①大学コース、専門コースにおいて、特性を生かした指導を行う。 ②三年間を見通したキャリア教育の実施。	①コース選択の満足度が高い値を示したか。 ①適切なキャリアガイダンスが行われたか。 ②「進路指導が十分に行われている」という生徒の割合85%以上か。			
3	現状：新型コロナ感染者減少に伴い、徐々に地域連携が復活してきている。今年度、定員が割れた学科が多くある。 課題：本校の特色・魅力・成果を積極的に情報発信するとともに、PR活動や来校できる機会を増やす必要がある	①積極的に情報発信し説明会等を充実させ、志願者を増加させる ②地域や小中学校関係者等との連携強化	①本校の特色・魅力・成果について積極的に情報を発信し生徒募集につなげる	①ホームページなど情報発信の機会を多く設ける。 ②生徒募集において、各科志願倍率1.0倍を確保する	ホームページ内容の精査を進め、保護者用情報発信アプリを導入し情報発信に努めた。 ①ホームページの更新回数は199回(1/15現在)(昨年度同時期250回)、1月12日現在の志願倍率0.43~0.98倍(昨年度同時期0.48~0.95倍)1倍を下回っている。 ②中学校への出前授業を6回、彦成中まるごと体験、立花小との連携授業など実施。学校説明会、学科説明会、体験部活動、体験授業を実施し、延べ888人(中学生生徒468人)が参加した。(同700人) 地域や、小中学校など連携は概ね達成できた。 ①三郷市、三郷市教育委員会と連携し、年次研修に実施や、「GIGAプロジェクト」へ教員の派遣ができた。	B	
			②各種説明会や学校見学会、出前授業、体験入学等をととしたPR活動の実施	①地元小中学校との連携回数の増加 ②本校で行う各種広報行事における参加者数増加			
			①地域行事に積極的に参加し、本校へのニーズを知るとともに地域連携を強化する	①地元の企業や自治体等との連携回数の増加 ②本校に対するニーズをとらえ、適切な援助ができたか			

学校関係者評価
実施日 令和6年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・手書きは記憶力が向上する。端末の使用と相乗効果生まれる。バランスが大切。 ・端末使用の教員同士の学びあいの場が必要。 ・実際の工場では、機械がコンピュータ化されている。学校の実習機械が古すぎる。一方でアナログ的な部分など基本的技術も大切である。 ・日本の中小企業は少なくなっている。技術移転が進み、海外へ発注しているのが現状である。その認識も持っていたほうが良い。 ・学力向上には家庭での学習も重要である。 ・朝学習は、自習的な内容だとやらなくなる。 ・上級の資格紹介、指導が無い。
<ul style="list-style-type: none"> ・何でも学校へ任せる社会の風潮がある。親の指導が行き届いていないこともある。家庭の協力も大切。 ・交通ルールを守る大切さを、しっかりと指導してほしい。 ・遅刻しないことは、余裕を持った行動ができ、事故も少なくなる。習慣づけをお願いしたい。 ・「報連相」、「絆」の指導は大切である。 ・大学進学希望者が増えている。興味がある方向へ導く指導も大切。 ・就職指導は手厚いが、進学指導は薄い。 ・進路決定が全てでない。生徒自身で適性を見つけられるキャリア教育が必要。 ・生徒会として行事が続くのは大変である。文化祭は一般来場者が多いと嬉しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・入学希望者が少ないのは、魅力がないからではないか。 ・長期ビジョンが必要である。 ・HPの更新がされていない。特に部活動。その他も検討の余地あり。 ・まるごと体験では、終わった後の生徒たちの目が輝いていた。教員も驚いていた。来年は入学希望者が増えると感じる。以前もそうであった。 ・施設を見ることは、刺激になる。工業高校を、小中学校教員に知ってもらう機会は大変。 ・子供たちと高校生の触れ合う事業があるとよい。